

# 町長の一言



## 元祖赤ネギ

2月初旬、新聞の茨城版に、このほど県の園芸研究所が品種改良を重ねて開発し、昨年8月に品種登録された赤ネギ「ひたち紅っこ」が大手コンビニのおにぎりに登場するという記事が載ったので、私は「はてな？」と首をかしげました。1月に県内各地域の団体等が参加した新年の集いに、各市町村の地場産品が展示されたコーナーで、城里町の「レッドポアロー」の他に県南の地域から「ひたち紅っこ」の名でほとんど同じような赤ネギが出品されていた事を思い出し、あの時のものだと分かりました。

ところで、那珂川の沖積土壌でなければ良い赤味が出ないともいわれたので、ビックリしてしまいました。それに、その原種は頃の赤ネギと聞いている、それはないだろうという気持ちでいっばいです。

京都に京野菜といわれる聖護院かぶら、壬生菜、賀茂なす、堀川ごぼう、九条ねぎ等々ありますが、原産地、原種を大切にしながら振興を図っているところが多いです。種子を制するものは、農産物を制するともいわれていますが、地元でも、苗、種子の管理には気を遣っていたようですが、その辺を考えると、何か配慮が欠けている開発手法ではないかと考えているところではあります。元祖赤ネギはこちらです。

## 文芸しるさと

### 俳句



冬の鳥日向の土をこぼしけり  
飯田 勇一

長き枝運べり空に冬の鶯  
山崎 正行

神の山樹氷朝日にきらめけり  
飯村 昭子

せせらぎの煌めき流れ寒明くる  
高橋 芦江

教室に弾ける笑ひ桃の花  
仲田 まちゑ

朝日射しぎくぐく刻む春キャベツ  
森 静江

すぐそこを国道走り梅咲けり  
いそべきよ

布に置く待針五色春の雲  
鯉 淵 寿美恵

緩やかな食事制限春隣  
今 源 多代美

食堂に八時の朝日シクラメン  
竹内 幸子

ふるさとや日当る縁に身を伸ばし  
飯村 愛子

石垣の前の一列水仙花  
田所 厚子

海目指す風の勢ひ路の臺  
瀬谷 博子

西小の三世帯寄り餅を搗く  
岩下 金司

首傾げ何て楽しげ小鳥群れ  
田口 勝元

雪降らず喜ばれてる通学路  
富田 欽子

### 短歌



初孫の爪を掴みつこの柔き  
手が掴む遙かな未来を思ふ  
渡辺 千紗子

週三度アイサービスに行く義姉は  
米寿なれど押花教え共に楽しむ  
秋山 愛子

絵手紙にふきのたう描かむ師走日を  
ひっそりと萌ゆる色合ひ選りて  
大森 久子

刃のごと澄める川あり移動する  
雲を映して流れゆきたり  
高堀 よしの

仕上りし髪を鏡に合はすれば  
若き日の如満足感覚ゆ  
佐川 あや

豊かなる施設設備を見学す那  
須塩原市福祉センター  
杉山 みちこ

若きは屋敷の栗山切り倒し  
「サクランボ」の稚苗植をゆく  
宮本 ふみ江

温室ゆ出されし日を浴ぶるレモ  
ン鉢黄緑五、六個清々と垂る  
所 美恵子

「ウクライナ国立バレエ団」の演じゆ  
く「白鳥」の舞いをうつつならざり  
青柳 京子

クリスマスツリー煌くふるさと  
を旅びとの如く見つつ通りぬ  
山形 式 妙

真冬日の永く続いて氷たる池  
面に今朝もセキレイ遊ぶ  
阿良山 ウメノ

大寒の身に凍む寒さ増しくれ  
ば明けの明星煌きましぬ  
岩下 通子

春よ来い早く来いよと庭先の  
雪割草が芽を吹き出しぬ  
岩下 美智野

二十年明けても暗きニュース  
のみ煌々と笑ひ放映を待つ  
仲田 こう

### 川柳



冬の風冷たく吹きし山肌をジ  
ヨウビタキ二羽飛び交い遊ぶ  
鶴田 すが

節分に大雪降りしめづらしき  
枯木に雪の花の咲くらん  
市川 義子

電飾の街は夜毎に華やきゆき自ずと  
「シングルベル」のリズムで歩む  
枝 不美

亡姑の齢はるかに過ぎてははを  
恋ふ鮎の甘露煮ほぐつつみて  
片見 和枝

暮れに病めど癒えて正月を迎へ  
られ心新たなる年となりたる  
川上 千代子

息ら寄りて初日おろがむわが家  
に陽はさんさんと輝りつつ昇る  
島 愛子

爆撃うけ無より起きたる二十  
歳今日着飾れる成人に触る  
多田 志保子

一本の「ろう」燃やしつつ亡き  
夫の前長く立てり言葉かけつつ  
坪井 きよ子

御神灯の点る古杉の参道を感  
謝と願いを込めつつ歩む  
萩谷 登喜子

祭壇の遺影の笑顔に隠された  
越え来し山坂の険しさを思う  
富田 佐智子

孫達のバレンのチョコは高く付き  
自慢ではないと断り孫自慢  
青木 新三郎

見学者檻から逆に見つめられ  
観光の中見知らぬ人と知合に  
中島 芳春

この笑顔これがうれしい、ボランティア  
まな板も鍋も使わぬ晩ごはん  
永井 英陽

山本 隆 荘